

すき家生き残れるか

従業員の過酷な労働環境が問題となったことを

きっかけに、全店舗の約6割で深夜営業中止に追い込まれた牛丼チェーン「すき家」。拡大路線で成長してきたすき家は再生できるのか。

すき家は1日以降、167店で午前0時から午前5時まで深夜営業を中止する。これまで大半

の店舗で深夜帯は1人で切り盛りする「ワンオペ」と呼ばれる勤務体制だったが、外部有識者による第三者委員会から「法令違反状況」との指摘を受けた。ただ、

人材確保困難に

困難で、人件費も上昇していることから、採算が厳しい店舗では深夜営業を中止した。

牛丼業界に詳しいフードアナリストの重盛高雄氏は「売上げが落ちる半面、コストの削減につながる。無理やり24時間営業を拡大することは業績にも世間的にもマイナス効果だ」と分析する。

労働環境の改善が急務のすき家

一方、残る589店では24時間営業を続け、ほかの店舗でも深夜の営業再開は今後の状況をみて判断するとしている。前出の重盛氏は「会社



くの商品を提供するという姿勢は変わっていないのではないかと。深夜営業については扱う品目を減らすなどの戦略も必要となるだろう」と指摘した。

側の発表をみても従業員「すか語られていない」という印象。24時間営業で多

6割店舗で深夜営業中止

で働きたいという人をどれだけ増やせるかも課題となりそうだ。